

新発見「甲を着た古墳人」と、知られざる震災復興の現実・・・

「災害と考古学」に触れた第16回文新協大会

去る2014年7月19日（土）、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）において、「災害と考古学 ～遺跡から災害をどう学ぶか、災害から遺跡をどう守るか～」をテーマに本会第16回大会を開催いたしました。当日は会員をはじめとする一般市民に加えてたくさんの大学生が参加し、会場は約80名で埋め尽くされました。今回は当日参加いただいた方の中から、新潟大学で考古学を学ぶ学生の方から報告文をお書きいただきました。なお、大会に先立ち行われた総会では、「2013年度活動報告」「2014年度事業計画」などの議事が承認されました。大会後、会場近くで行われた懇親会も、講師のお二人のさまざまな話が聞かれ大変盛り上がりしました。ここにご報告させていただきます。（事務局）



熱気に包まれた会場

文化財保存新潟県協議会第16回大会参加レポート

菅沼 奏美（新潟大学人文学部3年生）

今回の講演会では講師お二人のそれぞれの話で興味深い点がいくつかあった。

まず前半に講演を行った原雅信さん（群馬県埋蔵文化財調査事業団）の金井東裏遺跡（群馬県渋川市）の「甲を着た古墳人」を中心とした火山噴火や地震災害の遺跡における痕跡のお話では今まで知らなかった「甲を着た古墳人」の発掘の様子やそれ自体の調査成果について聞けただけでなく、自分も常常に関心を持っている遺物などの分析方法等の話に関係することについても少し触れられていたので非常に興味深かった。特に出土した人骨の周囲の土が黄色く変色していたという事実に関してはとても興味を持った。もしかしたら何らかの肉体的情報を残しているかもしれないと思われるこの部分の土に関して原さんは「外部のものが接触したことですでに他の物質で汚染されてしまっている可能性があるため分析は不可能である」とおっしゃっていたが、まだ人骨が半分埋まっている状態であるならばまだ取り除いていない部分の土を分析にかけるのでは駄目なのだろうかという疑問に思った。しかし、すでにすべての土を取り除いてしまった後で「情報が残っていたかもしれない」という推測に行き着いたというのならそれは不可能だと私も思う。どちらにせよ話を聞く限り今はもうおそらく分析は不可能であることは確実だと思われるが、こうした分析の方法などについてはとても興味がある。方法などについては詳しくは触れられていなかったのですが今後、自分の方で知識を深めていきたいと思う。金井東裏遺跡の出土状況しかり、「甲を着た古墳人」を含む



生々しい調査成果を報告した原さん

複数体の人骨等から分かる彼らが死亡したときの状況や直前までの地表での人々の動きしかり、全体的に非常に興味深い内容であったし、遺物・遺構等の分析方法についても考えさせられた。



次に後半の高橋保雄さん（新潟県埋蔵文化財調査事業団）の東日本大震災の復旧・復興における発掘調査の状況と課題に関するお話についても初めて知ることが多く、とても勉強になった。まず何よりも先に、表立ってマスコミ等に取り上げられることは少なくなったものの、いまだ東日本大震災の爪痕が残っているということを再認識させられた。そのうえで復興のため学術的なものではないにせよ発掘調査が数多く行われているということを今回はじめて知った。お話を聞く限り、重労働である発掘調査での派遣職員の健康管理

の不十分やそのうえの人員の不足、報告書の刊行まで目途の立っていないものが多く問題であることなど、早急に改善が望まれる現状での様々な問題点があることが分かり、これらの主な問題の根本に共通するのは人員不足とそのただでさえ少ない人手を効率よくうまく使えていないことにあるのではないかと思った。人手不足というのは多くのボランティアが協力してくれるなどしてくれない限りなかなか難しい問題であるのかもしれないが、発掘調査に付随してくる諸作業はやはり手間暇のかかる仕事が多いのだと改めて感じた。

今回の講演会では自分の知らないことを多く知れたのでとても勉強になったというのが一番の感想である。また聞いたことに関して、分析方法に関する知識などより知りたいと思うことも出てきたので非常に有意義な時間であった。内容は自分の専門地域とは違う日本のことではあるがこうした内容も自分の専門の勉強の糧にしていけるよう今後勉強を進めていきたい。

----- **【参加者の感想】** -----

- 群馬県の災害と考古の関連の話は、非常に魅力的だった。ド素人の自分でも、やや身近な“災害”に結びつけて考え理解することができた。ただ知識や学として深まる存在ではなく、社会に対する考古学という点に、これからも注目していきたい。ありがとうございました。
- 金井東裏遺跡のお話を聞いていた時、質問にも出た通りポンペイ遺跡を思い出しました。火山噴火という突発的に起こる自然活動によるものだったからこそ、興味深いものが発掘できたのだと感じました。しかし、分析精度への懸念など、終わった後も反省を行っていたことも重要なことで、今後の発展に期待したいと思います。東日本大震災の復旧活動については、私自身岩手県出身ということもあり、とても身近に感じながらお話を聞けました。大震災は本当に苦しく大変なものですが、復旧の中で生まれるものがあるのだということを、文化財保存の面から知ることができたのは、大変有意義であったと考えております。
- 今回の講演会を通じて私が改めて感じたのは、「自然の前では人間など余りにも無力である」ということである。人間の力では「自然災害そのものをなくす」ことなど不可能であるから、「過去（の被害）から学び、もしまだ同様の災害が起きた時に、どう対応するか」ということが重要であろう。そのためには、まず「過去を知る」ことが必要不可欠である。その際、文献史料や口承のみではなく、考古学的な発掘調査にも期待がかかる。重要なのは、「過去の災害に目をつぶらず、きちんと向き合う」ことであると、私は考える。
- 鎧を着た人骨が見つかったという話を聞いてずっと詳しく知りたいと思っていたので、とても興味をひかれる話を聞くことができました。あまり見つかっていない遺物やめずらしい遺構などがたくさん見つかったので、今後の調査でどのようなことが分かるのか非常に楽しみです。また、後半の講演では県外の発掘調査の様子が詳しく分かりました。発掘報告書を見ても分かりますが、やはりそれぞれの県で調査のしかたにも長所短所があるのだと思いました。発掘調査の効率化を図るために、測量を業者に委託するのはよくあるのではないかと思います。遺物の実測や復元、写真撮影なども民間業者に委託するのは驚

きました。大学では、実習の一環でもあるのでほぼ自分たちで行うので、実測などを委託するのは想像できませんでした。震災の復興において、調査は非常に急務であるので、様々なことを効率良くしなければならぬと感じました。

- 古墳人の人骨がどんどん発掘されたことに驚いたのと、CTスキャンなど様々な技術を使うことでとても細かいところまで分析ができて興味深かったです。あと、赤玉の存在を初めて知ったのですが、とても気になりました。あれが何だったのかまだはっきりしてないということで、何に使われていたのか知りたいと思いました。また、発掘調査の現状について聞くことができ参考になりました。調査方法が宮城は他の県とちがう点があるということは初めて知りました。
- 原さんのお話を聞いて、金井東裏遺跡の概要がわかり、いろいろな想像が膨らんだ。地元の遺跡の地割れ・噴砂などの遺構と、有史時代については文献もあわせて災害の様相を明らかにすることが大切だと思った。高橋さんのお話では、被災地への様々な支援が必要な事を感じた。調査員の不足や報告書刊行の遅れなどの課題には、長期的な計画・支援が必要と思った。
- 初めて甲を着た古墳人の様子や首飾りの古墳人の実態を見ることができた。つま先がまがっている点、頭部の位置が高い点から柔らかな履き物をはいていたこと、青をかかえていたことがわかり、人骨から人間性が見られ、何千年も前に生きていた当時の人が少し近く感じられた。東日本大震災にあたり多くの人が復興支援にとりかかったことは知っていたが、埋蔵文化財の保護の復興もあると分かり、さまざまな点からさまざまな所から派遣され、まだ完全とはいかないまでも今日の東北の復旧があるのだなと思った。
- とても興味深くお話を聞かせて頂きました。世界中が不安定な状況の中、歴史から現在、人間がどうすべきかを学び実行していくことは、とても大切であると痛感しました。文化を大切に出来ない時代は、破壊の時代であると思います。今日のお話をきっかけに、文化財の保存に少しでも貢献出来ればと思いました。

心おどる新発見と遺跡保存問題が絶えない古都奈良で4回目の開催 文化財保存全国協議会第45回奈良大会に参加して

木村 英祐

去る6月20日（金）から22日（日）までの3日間、文全協第45回奈良大会が開催されました。奈良での大会開催は4回目。私自身も3回目の参加になります。古代史をぬりかえるような新発見が相次ぐ古都奈良は、一方で遺跡保存の問題が次々と巻き起こる保存運動の最前線でもあります。私は今年も全日程に参加することができました。以下、ご報告します。

○6月20日（金）全国委員会・総会（奈良県文化会館）

全国で活動する会員が年に1度集まる総会です。1年間の文全協の活動をふりかえり、2014年度の運動方針を協議しました。そして、メガソーラーが設置された佐賀県吉野ヶ里遺跡の現状、昨年の総会で保存要望を決議し保存が決定した神奈川県茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群の現状などが報告されました。また、喫緊の課題として「若草山へのモノレール計画中止を求める決議」「世界遺産平城宮跡のコンクリート舗装化に反対し適切な保存を求める決議」を採択しました（文全協ホームページに全文を掲載しています）。

○6月21日（土）「古代大和の史跡めぐり」見学会・懇親会

近年話題となった奈良県内の史跡の整備状況を見学しました。午前中は、ヤマト政権成立前夜の弥生時代の遺跡です。田原本町の唐古・鍵遺跡の現状、そして豊富な出土品を展示した唐古・鍵考古学ミュージアム、そして、桜井市の纏向遺跡では纏向石塚などの墳墓群や居館域の発掘跡を見学しました。その後、



唐古・鍵遺跡の復元楼閣



明日香村酒船石遺跡の亀形石造物



きれいに復元されたナガレ山古墳

明日香村へとバスを進め、徒歩で酒船石遺跡の亀形石造物、飛鳥京跡、川原寺跡などの古代遺跡を堪能。藤原宮跡を車窓から眺めつつ馬見古墳群へ。前方部の西側に「出島状遺構」がみつかった北葛城郡広陵町の巢山古墳（全長約220mの前方後円墳）では実際に墳丘に登ることができました。同じ馬見古墳群の北葛城郡河合町ナガレ山古墳（全長約105mの前方後円墳）は、半分は墳丘に芝を張り、半分は埴輪・葺石を並べて整備しています。バスはその後、法隆寺、中宮寺などを車窓からのぞみながら奈良市内へ。残念ながら、予定していた平城宮跡は車窓から眺めるだけとなってしまいましたが、とても濃密な見学会でした。夜は恒例の懇親会。全国の仲間たちと交流を深め、文化財談義に花を咲かせました。

○6月22日（日）大会「史跡の公開・活用と史跡整備」

奈良県文化会館を会場に行われ、全国の会員のほか地元市民・研究者が多数参加しました。記念講演は渡辺晃宏さん（奈良文化財研究所史料研究室長）による「出土文字資料から遺跡を読み解く」。豊富な平城宮出土木簡の解説は、「さすが木簡研究のメッカ！」とうなるほどの情報量で、たいへん貴重なお話しでした。その後、奈良で運動が展開されている「世界遺産平城宮跡の国営歴史公園整備問題」「若草山へのモノレール建設問題」の状況報告のほか、全国の史跡の整備・活用例が報告されました。

なお大会中、第15回和島誠一賞授賞式が行われました。個人部門は長野県長和町黒耀石体験ミュージアムでユニークな遺跡保存と体験学習に取り組む大竹幸恵さん、団体部門は福島県で歴史・文化遺産の保全活動である文化財レスキュー活動にあたる「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」が受賞されました。いずれも新潟の隣県での活動であり、特に大竹さんには2009年の本会主催「信濃の縄文遺跡をたっぷり堪能する旅」でお世話になりました。受賞を心からお祝いしたいと思います。

※本報告は、文化財保存全国協議会ホームページに木村が寄せた文章に一部加筆しました。

編集後記

「災害と考古学」をテーマに開催した第16回大会の報告を中心に編集しました。当日はたくさんの学生さんたちも訪れました。参加者のアンケートから感想の一部をご紹介しましたが、他にもたくさんの感想をお書きいただきました。貴重なお話しをいただいた講師のおふたり、そしてご参加いただいたみなさんにこの場を借りてお礼申し上げます。この会報の編集中、戦後最悪の火山災害が起きてしまいました。テレビの映像と大会での原さんのご報告がだぶります。

一方、文全協は6月に45回目の大会を開催しました。8月には2泊3日の夏の見学会「信州・歴史遺産の旅」も開催され、新潟からも会員の方の参加がありました。とても充実した見学会だったようです。みなさんも、文全協の催しに参加して、全国のホットな遺跡情報に接してみたいはいかがでしょうか。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

E-mail : bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ : <http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/>

文全協のホームページもぜひご覧ください。